

三陸新報

三陸新報社
〒988-0141
気仙沼市松崎柳沢228-100
電話 0226 (22) 6700(代)
FAX 0226 (23) 6100
URL http://www.sanrikushimpo.co.jp/
e-mail news@sanrikushimpo.co.jp
© 三陸新報社 2011年

東北関東大震災 被害復旧情報

火災ようやく鎮圧

2千戸で電力復旧

気仙沼市の死者、行方不明者700人(17日現在)

国内最大の火災となった東北関東大震災から七日目の十七日、気仙沼・本吉地方は電力などの復旧が進み、内の脇などの火災も鎮圧状態となった一方、被害が大きすぎてその全容はいまだ分かっていない。気仙沼市によると、十七日午前七時現在で死者は三百五十二人、行方不明者は三百四十三人。避難者は市内九十三カ所で一万余九千六百七十七人(十六日午後十時現在)に上り、二日連続の雪で寒さが厳しい上、食料や生活必需品の確保が不安な状況だ。



助け合いながらの避難所生活(鹿折中)

市の発表によると、大島と大浦の山林、内を捜しており、残された火災は、降雪によって鎮圧状態となった。ヘリコプターで残り火を確認している。警察や消防団は、津波で流された車や建物波を確認している。港湾機能を確認する。

電力は、赤岩牧沢の気仙沼変電所が機能し、十六日まで松岩地区を中心に約二千戸の停電が回復した。市総合体育館、市立病院、市役所などへも通電した。

町などの一部へ給水を開始した。新月浄水場も市立病院などへ給水を開始。給水車による給水は、避難所を中心に続けられている。

被災した唐桑、本吉の両浄水場は回復に時間がかかる。給水車による給水は、避難所を中心に続けられている。

避難所で衣類が不足している。十七日朝、災害対策本部が置かれている。仙台周辺でも復旧作業が進み、仙台空港の滑走路が使用できるようになった。塩釜の大規模な石油基地が機能することも判明している。

【交通情報】三陸縦貫自動車道は全線通行止め。国道二八四号の気仙沼一関間で通行可能。東北自動車道は川口JCTで碓が関ICまで通行止め。JR東北新幹線は東京、那

大島へ1日2往復
魚町と大島浦の浜を分に出発し、県庁前に着、下りは大島浦を午前九時三十分に出発し、県庁前に着、下りは大島浦を午後零時十五分に出発し、市総合体育館に同五時五十分に着。料金は千八百円(現金のみ)。

みんなでがんばろう

【携帯電話】auは市役所駐車場に仮設アンテナを設置。NTTドコモは十六日から本町橋、防災センター付近などで通信・通話が可能。NTTは市総合体育館で衛星通信を利用した公衆電話を設置し、無料で提供している。

【医療機関】市立病院は救急にだけ対応しているが、内服薬の処方を開始した。整理券は午前八時から配布し、受け付けは同八時三十分から同十一時まで。小野寺病院、大友病院、三峰病院、おだか院、鈴木病院、中原クリニック、三条小児科、小野寺病院、大島院で受け付けを開始する。上りは市総合

市内の給水場所
ワンテン庁舎
ケー・ウエーブ
階上中
面瀬中
気仙沼小
気仙沼駅
市民会館
松岩小
キングスタウン
新月中
鹿折中
唐桑総合支所
中井小
唐桑中
館老人憩の家

【市内の6安置所で不明者届出と確認】届出にあたっては、不明者の本籍、住所、氏名、性別、生年月日、身体特徴(身長・血液型・体格・髪型・手術痕)、所持品など、確認に必要な情報を記入する。指輪を付けている場合は、刻印が分かることを確認が早くなる。各安置所で、ほかの安置所に収容されている遺体の情報が確認できる。身元不明者は遺体の写真で確認する。情報は毎日更新される。

亡くなられた方々 (17日朝発表分、敬称略)
三浦和子 波路上内ノ下
齋藤和博 長磯原
三浦公和 波路上杉ノ下
山田国子 上町
松本伸 中沢えみこ
齊藤澄子 村上與壽雄
小野寺こはる 原田茂夫 南町
阿部すみ子 千葉のり子
日野スユ子 最知川原
大原さき子 本吉町前

津波

国道から500メートル山側に

唐桑 只越もがれきの山

通行可能になった国道四五号を下って唐桑地域に入った。只越地区の家々は津波に押し流され壊滅状態。只越トンネル手前の国道から海までに原形をとどめる建物は一つもなかった。

大沢地区は大沢漁港と館浜側から挟み込まれる形で津波被害にあった。国道四五号から五、六百メートル入った山側までがれきが折り重なり、津波の猛威を物語っている。十七日には家をなくした住民が自宅の場所に戻り、使えそうな家財道具や水、日用品などを買い求めようとする住民らが長蛇の列を作った。気仙沼市東新城、デイリーポート新鮮館で営業している量販店は十七日、食料や水、日用品などは午前六時ごろから列ができた。同日九時ごろには五百人ほどになり、締め切られた。妻、三歳と四ヶ月の子供がいる東新城の会社員三浦貴広さん(三三)は「食料は今のところ足りているが、今後が心配なので日持ちするものを買いたい。灯油が無くなるのが不安。電気もいつ復旧するのだろうか」と心配していた。



甚大な被害を受けた気仙沼市唐桑町大沢地区



店舗前には長蛇の列(デイリーポート新鮮館)

唐桑町港の星アヤ子さん(八〇)は「寝たきりの夫を津波で亡くし、石だ」とうなだれた。



高校生らがボランティア(ケー・ウエーブ)



避難者情報に見入る(ケー・ウエーブ)

避難者心強く

高校生の自主ボランティア

市内最多の一千三百人、十七日現在「がれき」に困っている「ケー・ウエーブ」では、高校生を中心に「ボランティア」組織を結成。体育館内の清掃や給水、受付作業などを自主的にやっている。

小野寺君、工藤君(いずれも気仙沼西高二年)の二人が「自分たちにも何かできることはないか」と、仲間を集めながら活動を始めた。

現在、メンバーは高校三年生から小学五年生まで二十九人。みんな「何か人の役に立ちたい」と思っていて、言葉が本当につれしく、やりがいがある。言葉が本当につれしく、やりがいがある。言葉が本当につれしく、やりがいがある。

風邪広がらなければいい

十七日朝の雪、寒さは避難所生活を送っている人たちにとって、層、厳しいものとなった。停電が続いている避難所や、暖房がなく毛布も不足している所もあり、寒さに耐えながら不安な日々を過ごしている。

水道も復旧せず、衛生管理面での不安も出てきた。「避難所は寒くて窓は開けられず、風邪などが広がらなければいい。マスクやタオルなどで口をふさいで、予防に努めている」と六十代の男性、地震、津波当日、気仙沼中央公民館で不安な一夜を過ごした一景島保育所の子供たちは、気仙沼中学校に移動して、林小春所長と一緒に避難所生活を続けている。十六日には近所の人から提供されたぬいぐるみに「一緒に遊ぼうね」と笑顔で話しかけていた。



ぬいぐるみの提供に笑顔を見せる子供たち(気仙沼中)

「自分たちにも何かできることはないか」と、仲間を集めながら活動を始めた。

現在、メンバーは高校三年生から小学五年生まで二十九人。みんな「何か人の役に立ちたい」と思っていて、言葉が本当につれしく、やりがいがある。言葉が本当につれしく、やりがいがある。

「自分たちにも何かできることはないか」と、仲間を集めながら活動を始めた。

現在、メンバーは高校三年生から小学五年生まで二十九人。みんな「何か人の役に立ちたい」と思っていて、言葉が本当につれしく、やりがいがある。言葉が本当につれしく、やりがいがある。